

彙 報

第十八卷 第九號 昭和七年九月

丹波島橋梁架設工事

(此の報告に就ては准員森十郎君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

箇 所： 長野市外原川

計畫概要： 從來木橋たりしが失業救済事業の一として昭和 6 年度より 3 箇年繼續開業として架換工事に着手せり。本橋は長野市都市計畫上の新橋となすを至當と認められ別河道を區別して設計せられたり。

橋梁型式： スルー型ゲルバー式構造

橋 長： 540 米 $\begin{cases} 42.5 \text{ 米} & 2 \text{ 連} \\ 65.0 \text{ 米} & 7 \text{ 連} \end{cases}$

幅 員： 12.20 米

鋼材總噸數： 2,424 噸

橋脚基礎： 非筒

橋臺基礎： 非筒

工事概況： 昭和 6 年 12 月 9 日着手、以來水害もなく下部構造は 6 月中に橋臺 2、橋脚 8 を完成せり。下部構造工事中最も特長とする所は間組長野出張所の考案による水締切用コンクリート・ブロックなり(附圖及寫眞第一、第二参照)。

ブロック組立繼目に角材に昆布を巻きて挿入し組立完成後荷重を積載し計畫通り非筒を沈下せしめて底埋コンクリートを水中バケツにて打ち凝結後昆布の膨脹を利用して水の侵入を防ぎポンプにて水栓をなし中埋軀體コンクリートを打ち取棒を取外したる後にブロックを外し他の非筒上に組立繰返し使用するものなり。但しブロックを 3 回使用せば破損甚しく使用に堪へざるに至るを以つて之を非筒中埋又は橋臺軀體に埋込みたり。

昭和 7 年 5 月 17 日より鋼材架換に着手し一日平均 2 格間を組立てつゝあり。

工事費： 808,000 圓

内 譯	橋梁費	768,370.35 圓
	取付道路其他雜費	100,230.05 圓

工事執行者： 長野縣

設 計 者： 鈴木邦彦君(本會々員)及 千葉工務所

工事監督者： 長野工區主幹 松本正助君、主任 森十郎君、大高廣義君

施工方法： 請負、請負人 間組、鋼材製作者 櫻田機械製造所

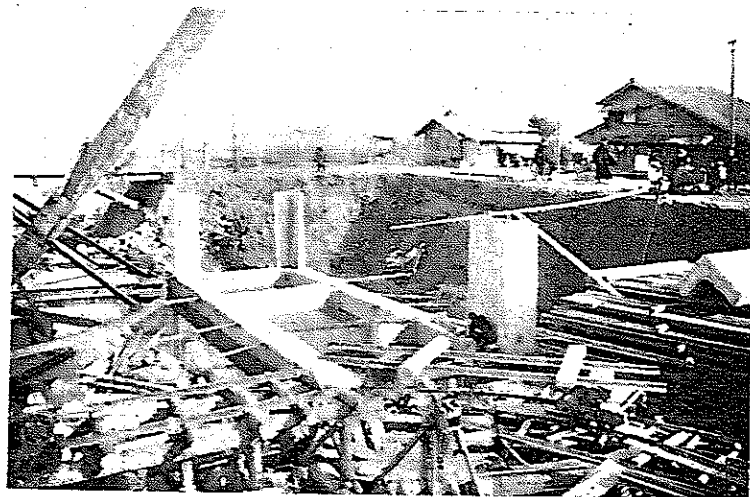
起工年月： 昭和 6 年 11 月 2 日

竣工豫定年月： 昭和 7 年 11 月 30 日

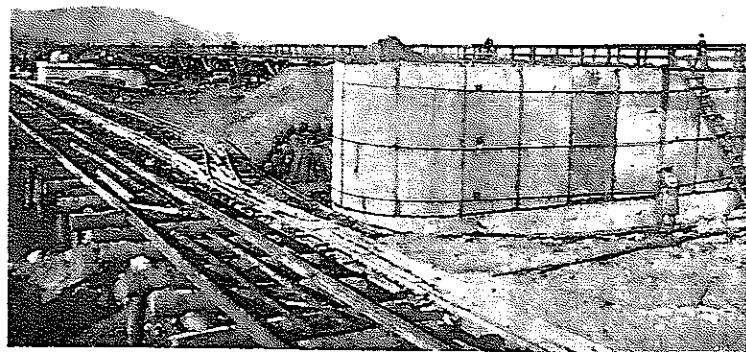
(以 上)

寫眞第一

右岸橋臺井筒水樋切ブロック組立中

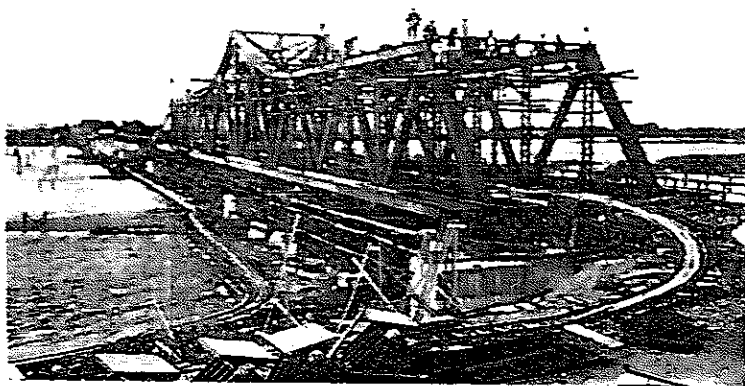


寫眞第二 第五號橋脚井筒水樋切ブロック組立終りたる所



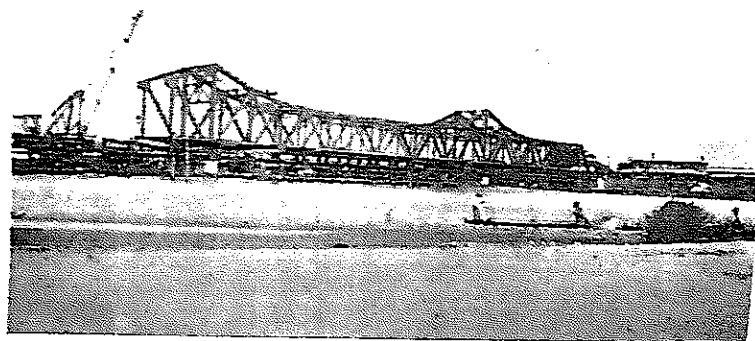
寫眞第三

橋桁組立中

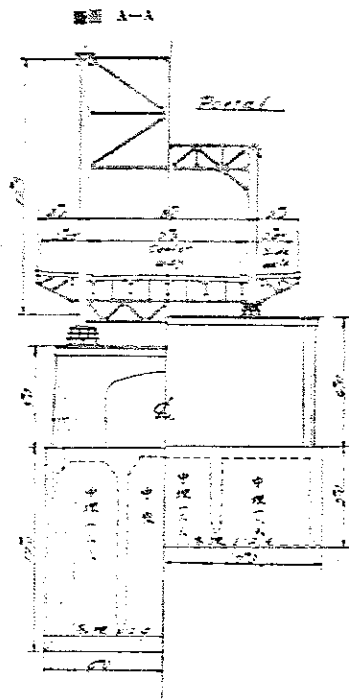


寫眞第四

橋桁組立中の全景



附圖 丹波島橋



コンクリート・ブロック組立

